



11月園だより

令和4年 11月1日
目黒区立大岡山保育園 園長

10月19日(水)に4,5歳児クラスが芋掘り遠足に行ってきました。出発時は肌寒かったのですが、着いた頃には青空が広がり汗ばむほどの好天気でした。

埼玉県川越市までの長い道のりなので楽しいバスレクリエーションは欠かせません。飽きの来ない楽しいゲームを担当の保育士は準備をして臨みました。私は5歳児クラスのバスに乗車しました。バスの通路を挟んだ右列、左列での対抗ゲームでは前列から後部座席に紙テープを蛇に見立てたものを送ります。ちぎれない様により早く回したチームの勝利です。子どもたちはそれぞれのやり方で上から送ったり座席の隙間から送り、競いあうのを楽しんでいました。また『袋の中身は何でしょう』のゲームでは、袋の中に入っている物を何かと想像しながら手で感じ、判ったところで後列に回します。お題はボールペン、マイク、スマートフォンで、正解率が高くて驚きました。言葉だけで考えるクイズもやりましたが、自分の感覚を研ぎ澄ませ、過去に触れたり目にしたものの記憶を掘り起こして回答につなげるというゲームを子どもたちはワクワクしながら取り組み、思考や想像をフル回転させて楽しい時間が過ごせました。お昼はお家の方が作ってくれた愛情たっぷりのお弁当を、満足気な笑顔で食べていました。朝早くからのお弁当作りありがとうございました。おかげさまで充実した遠足を楽しむことができました。

戸外遊びで落ち葉や木の実にたくさん触れられる実りを楽しめる時期となりました。

11月は各クラスの保育活動の中で今の季節しか味わえない遊びを堪能していきたいと思います。



今月の予定

中旬 歯科検診
身体計測・避難訓練

12月の予定

成長お祝い会(3・4・5歳児クラス)
中旬 身体計測・避難訓練
下旬 しめ縄作り(5歳児)



～芋掘り遠足へいってきました(4歳児クラス れもん組)～



芋掘り遠足を楽しみにしていた子どもたちは、乗っていくバスの青い色が見えた時から「おおー。バス大きいよ」「かっこいい」と言いながら楽しみが更に膨らんでいってました。農園について芋を掘ろうとすると、芋の先端が見えてはいるのですが引っ張っても抜けず「これ抜けないよ」「どうやって抜くの?」と不思議そうにしています。自分たちが思っていたよりもずっと大きかったようでした。一緒に根元を掘っていくと大きい本体が見えてきて「すごい」「おおきい」とびっくりしています。芋を袋に入れるたびに重たくなっていくので「だれか、たすけてえ」と言いつつ、自分の顔よりも大きい芋を手にとって見せてくれるのでした。

帰りのバスの中でも園に着いてからも「芋掘り、楽しかったよね」「おうちで焼き芋にしてもらおう」「(芋の一本一本を指さしながら)これはママでこっちはパパの分…」と子どもたちの会話が続き、満足感が感じられました。





戸外遊びの様子

『 バスマット DE 電車ごっこ 』 1歳児クラス(もも組)

保育士がバスマットを円形に敷き始めると、子どもたちはバスマットからはみ出さないように一枚ずつ渡りながら歩き続けています。線路に見立て保育士が「シュッシュュッ、シュッシュュッ」と音をつけながら汽車になりきって走り出すと、電車が好きな子が保育士の後を追って「シュッシュュー」と発車音をつけながら走りだしました。楽しそうな雰囲気になり、1人、2人と参加しはじめると、友達の後を追って声を出しながら楽しそうに走る子もいれば、フラフープを脇に持ち夢中で線路の上を走っている子もいて思い思いの電車が走ります。すると、円形の線路の隣では、ある子が小さなマットを並べ始めていました。よく見ると、曲線のようになっています。円形の線路のように同じようなものを作ろうとしていたように見えました。単なるバスマットを円形に繋げることで子どもたちにとって電車の線路のイメージになったようです。

子どもたちのイメージに寄り添いながら体をたくさん動かして楽しめるように遊びを工夫していきたいと思います。



『 季節を感じる 』 3歳児クラス(さくらんぼ組)

赤い道へ行く途中子どもたちが「先生、秋だから葉っぱがいっぱい落ちてるね」「落ち葉はたくさん落ちるから踏んでいいんだよ」と会話をしています。秋という表現に驚きつつ「先生赤い道についたらミミズを探すんだ」と話を続けていると「ダンゴムシ見つけるんだ」「アリさんいるかな」など言い合っている中で「私はセミをみつけるんだ」という子がいました。その言葉を聞いていた子がすかさず「もうセミはいないよ。夏じゃないからね」と言いました。また季節の名前がでてきたので「今は夏じゃなくて何なの？」と聞くと少し考えて「えーとね…秋だよ。」と答えてくれました。別の子も「秋だからこれだなにか作りたいね」と金木犀の花や落ち葉を拾ったことで創作意欲も湧いています。子どもたちの中で『季節』を自然などの日々の変化から感じ取る力がついてきていることを子どもたちの言葉から発見した場面でした。

この時期に楽しめることを十分楽しみながら、子どもたちの気づきやつぶやきに共感し、たくさんの発見を楽しんでいきたいと思います。



『 どのくらい大きいのか 』 5歳児クラス(ぶどう組)

碑文谷公園に散歩へ行き探索をしていると、園庭に生えている木より高さや幅がある大きい木を見つけました。幹に抱きつきながら「すごい大きい木だね。こんなに太いよ」というので、「手の長さよりもっと大きいね」と保育士が言うと、側にいた友達も一緒に幹に抱きつきます。手をつなぎながら「3人だとつなげた。次は2人でやってみよう」と違う木の方に走り、幹に抱きつきながら手をつないで「2人でぴったりだった」と喜んで次の木へと向かいます。「待って、1人でもできるかやってみる」と言いながら1人で手を伸ばしたものの「太くて無理だったよ」「やっぱり大きいね」と驚いていました。実際に自分たちの体を使って大きさを試したことで、想像ではなく実感できたようです。

これからも、量や数など身の回りのことから実感するような体験ができるように子どもたちのつぶやきや発見を保育士が拾い、一緒に知る経験へつなげていきたいと思います。

